

平成 22 (2010) 年度 日本語研修コース報告

和田 礼子

1. 第 12 期 (2010 年 4 月~2010 年 9 月) コース概要

開講期間：平成 22 年 4 月 15 日~平成 22 年 9 月 12 日

開講時間数：8 月 3 日まで授業は週に 90 分×9 コマ。

8 月 30 日からコンピュータ実習と修了レポート、発表資料作成のための集中講義。

	月	火	水	木	金
10:30~ 12:00	日本語 会話 1	日本語 会話 1	日本語 会話 1	日本語 会話 1	日本語 会話 1
12:50 ~14: 20	異文化 理解 1	漢字 1	スピーチ	特別研修	

* Word, Power point 実習、修了レポート作成 (集中講義)

使用教科書：『みんなの日本語初級 I』(スリーエーネットワーク)

『みんなの日本語漢字 I』(スリーエーネットワーク)

コース日程：

- 4 月 6 日~4 月 14 日 プリセッション ひらがな、あいさつ指導
(センター教官指導のもと、チューターによる個別指導)
- 4 月 9 日 全学留学生オリエンテーション
- 4 月 15 日 日本語授業開始
- 7 月 30 日、31 日 日本語能力試験 4 級 (過去問題) 実施
- 8 月 2 日~8 月 3 日 夏休み
- 8 月 30 日~9 月 9 日 ポスターセッション準備
- 9 月 10 日 ポスターセッション

2 受講生・授業について

クラスは大使館推薦国費の留学生で、半年後に宮崎大学に配置予定の 4 名で当初開講したが、開講から 2 週間目に、学習進度の早い二人が初級 2 のクラスに移動し、結果、2 名のクラスになった。学習進度の早い二人と、二人に比べるとやや遅い学生を分けた方がよいかどうか議論となったが、ペア練習の際、進度の早い学生にいら立ちが見られたり、遅い学生が考えている間に、答えを言ってしまったりといったことが散見され、また各学生の学習ストラテジーなどを考慮した結果、クラスを分けることとした。

クラスの構成員が二人になったため、語彙や文法に関しては十分時間をとって練習ができ、授業中の疑問にも立ち止まって説明を加えることができたが、

反面、クラスの中で起こる自然発生的なコミュニケーションを経験することができなかった。この点に関しては、学生が自主的に会館で行われる5週間プログラムや、日本人学生の国際交流サークルが行うボランティアクラス、また、学外の日本語クラスに参加したことで、幾分補完されたと考える。

最終試験の結果は全員合格であった。また、日本語能力試験4級のテストを行い、二人とも十分合格点に達していた。今期の研修コース生は全員が10月から宮崎大学に移る学生であったため、鹿児島大学に研究室を持たなかった。例年、研究のため、日本語の学習に時間が割けないという学生がいたが、今期はこのような悩みはなかった。しかし、例年、研究室の日本人学生と日常的に接触することで、日本語の会話を実践したり、新しい語彙を身につけたりといったことができたが、今回は、このような機会がなかった。

初級2のクラスは25課まで学習したが、最終的に、研修コースに残った学生と、初級2に移った学生の間で、それほど大きな差は見られなかった。通常のクラス編成なら、同じクラスでも学習できる程度のレベル差であったが、クラスを分けたことで、上位2名の学習意欲を維持し、また下位2名の学習が確実なものになったと思われる。

口頭能力の強化について、今学期は「たのしい会話」の時間をできるだけたくさん設けるなどした。

しかし、構成員が2名と言うこともあり、会話の応用練習のようなものが、ほとんどできなかった。

今学期は、上位の学生を早い時期に、初級2のクラスに移動させることができたため、クラス内でのレベル差の問題は起こらなかった。一方、開講当初、学習スピードの遅かった2人が、確実に学習を進める中で、自分たちも初級2のクラスが学習する範囲を学習したいと言うようになった。結果的には、従来の範囲をカバーしたあと、2日間で20、21課と、25課をダイジェストで紹介するのみに留まった。教師の判断としては、確実に身につけられる方法をとったことになるが、学習者の心情としては、定着は曖昧でも、より多くの項目を学びたかったようだ。

学期の最後に行なった日本語能力試験（過去問）の結果を見ると、研修コースで学習した学生と初級2で学習した学生の差は文字語彙に見られたが、聴解、読解・文法ではほとんど差がなかった。今後、このようなデータを積み重ね、また、学習者の個性も考慮しながらクラス編成と進度について改善していきたい。

（留学生センター准教授）